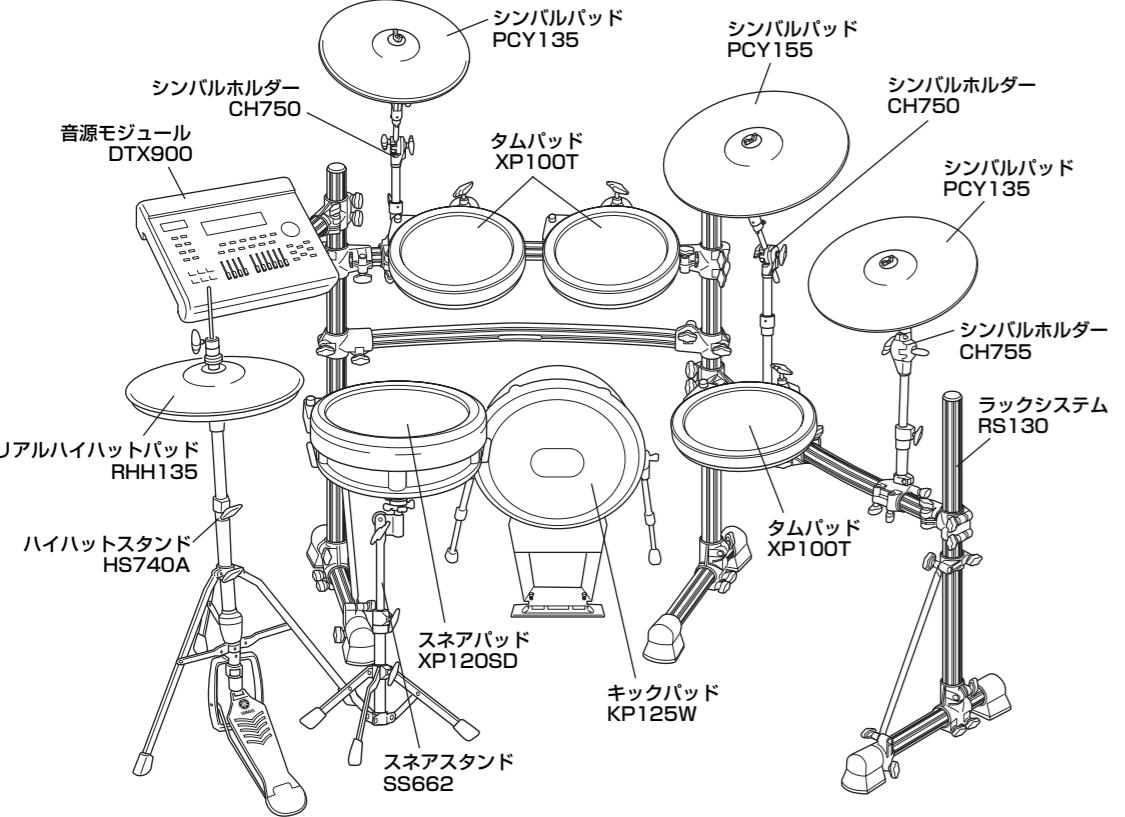


この説明書では、DTX900K の標準的な組み立て方を説明します。
下図のように組み立てと配線を行ない、電源を入れる前の段階までを説明します。

標準的な組み立て例



重要

- 組み立てには「ラックシステム RS130」、「パッドセット DTP900」、「パッドセット DTP901」、「音源モジュール DTX900」の入った4つの梱包箱が必要です。
- この説明書では、組み立てられた状態のラックシステム RS130 に対してパッドセットおよび音源モジュールをセットアップする方法を説明しています。あらかじめラックシステム RS130 に同梱されている組立説明書に従って RS130 を組み立てた上で、この説明書をお読みください。
- パッドセット (DTP900, DTP901) に同梱されているパッド類およびラックシステム RS130 の保証につきましては、それぞれの取扱説明書に記載の保証書をご利用ください。

注記

別売のドラムマットがある場合には初めに床に敷いてください。ドラムマットが無い場合、床に傷がつくのを防ぐためハイハットスタンド HS740A およびキックパッド KP125W を扱うときは必ず床に梱包材の段ボールなどを敷いて組み立てを行なってください。

安全上のご注意 ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他人の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

※ お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
※ パッドやラックに付属の組立説明書や取扱説明書も必ずお読みください。

警告 この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

!
けがをするおそれがありますので、小さいお子様が取り扱いされる際は必ず保護者が付き添ってください。
!
シンバルホルダーやタムホルダーの先端部分はとがっています。けがの原因になりますので、取り扱いにはじゅうぶん注意してください。
!
キックパッドやフットペダルに取り付けられているずれ防止用スパーは先端部分がとがっています。けがの原因になりますので、取り扱いにはじゅうぶん注意してください。
!
この製品を設置される際、固定用のナット等はしっかりと締めてください。また、固定用ナット類をゆるめる際は急激にゆるめないでください。パッドが落下したり、ラック、パイプ、スタンドの部品の落下、転倒などにより、けがの原因となります。

!
この製品を、不安定な場所（水平でない場所、ぐらついている台の上など）に設置しないでください。転倒、落下などにより、けがの原因となります。

!
この製品を設置される際、接続ケーブルなどの引き回しにはじゅうぶん注意してください。足を掛けて転倒するなど、けがの原因となります。

!
この製品を分解したり、改造したりしないでください。けがまたは故障の原因になります。

!
ラックに腰かけたり踏み台にしないでください。転倒したり壊れたりして、けがの原因となります。

注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、財産が損害を受ける危険のおそれがある内容を示しています。

!
「ご注意ください」という注意喚起を示します。
!
～しないでくださいという「禁止」を示します。
!
「必ず実行」してくださいという強制を示します。

注記（ご使用上の注意）

- ケーブルの抜き差しは必ずプラグ部分を持って行なってください。また、ケーブルの線の部分に重いものを乗せたり、とがったものが触れたりしないように注意してください。線の部分に無理な力がかかると断線などのトラブルの原因になります。
- この製品の上に乗ったり、重いものを乗せたりしないでください。故障の原因になります。
- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、閉めきった車内など）や、湿気の多い場所（風呂場、雨天の屋外など）での使用・保管はしないでください。変形、変色、故障や性能劣化の原因になります。
- 製品を手入れするときは、ベンジンやシンナー、アルコール類は使用しないでください。製品を変色、変形させるおそれがあります。お手入れの際は、やわらかい布で乾拭きするか、水を含ませて固く絞った布を用いて汚れをふき取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤を含ませた布を固く絞って汚れを拭き取り、そのあとで水を含ませて固く絞った布を用いて洗剤を拭き取ってください。

1

ラック RS130 を組み立てます。

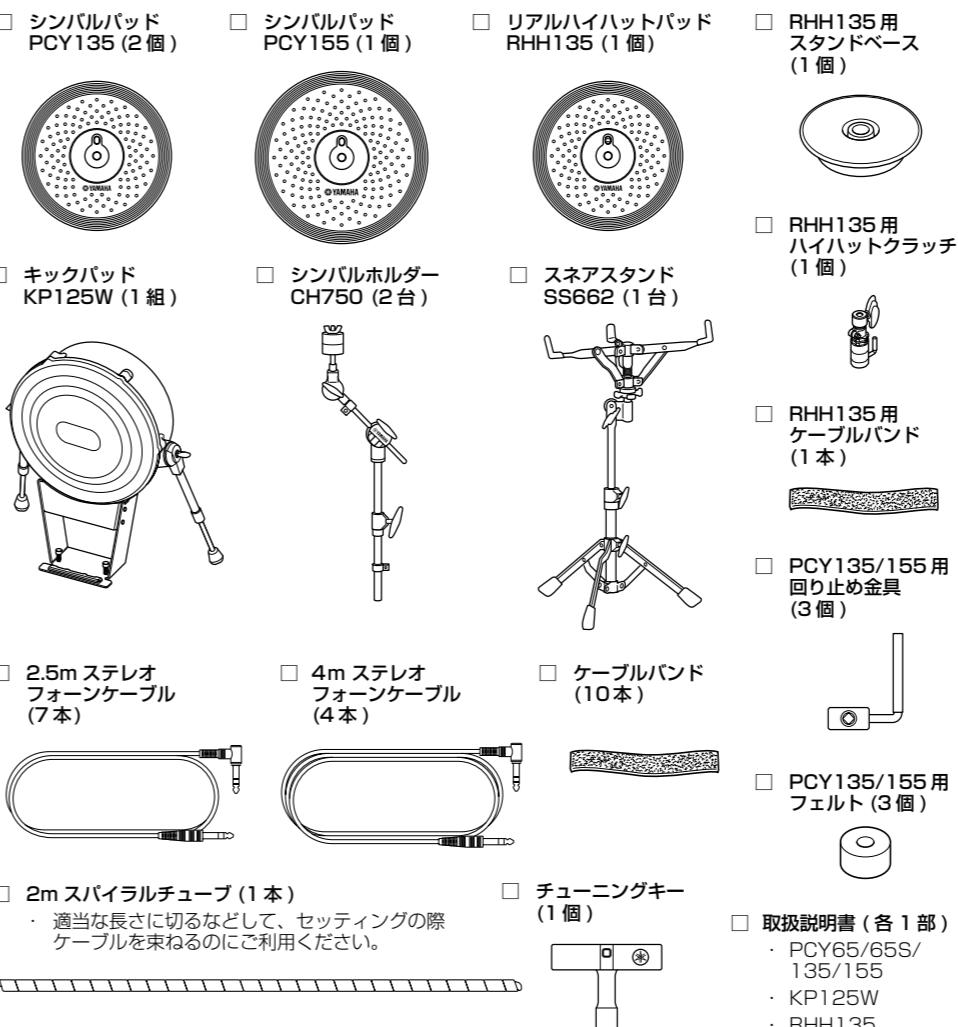
RS130 の組み立て方につきましては、RS130 に付属の組立説明書をご覧ください。

2

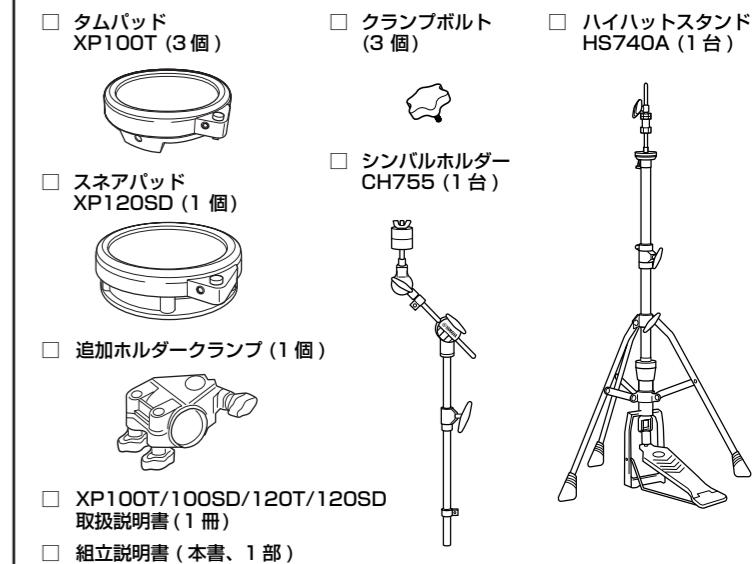
梱包箱の中身を確認しましょう。

梱包箱を開けたら、すべての部品がそろっていることを確認してください。

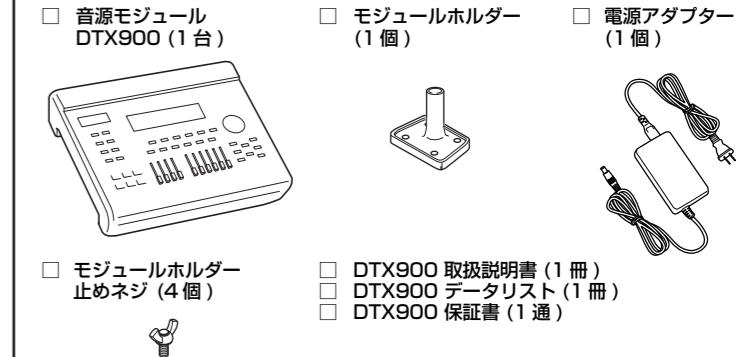
梱包箱 1 [DTP900]



梱包箱 2 [DTP901]



梱包箱 3 [音源モジュール DTX900]



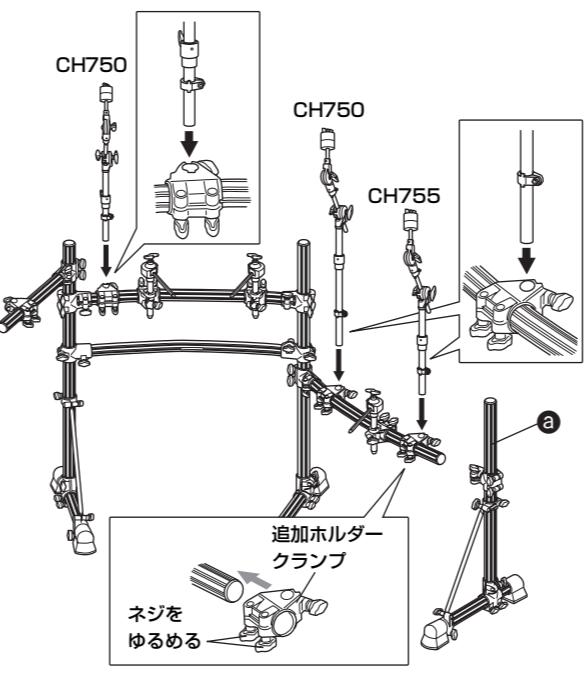
3

パッド類と音源モジュールを取り付けましょう。

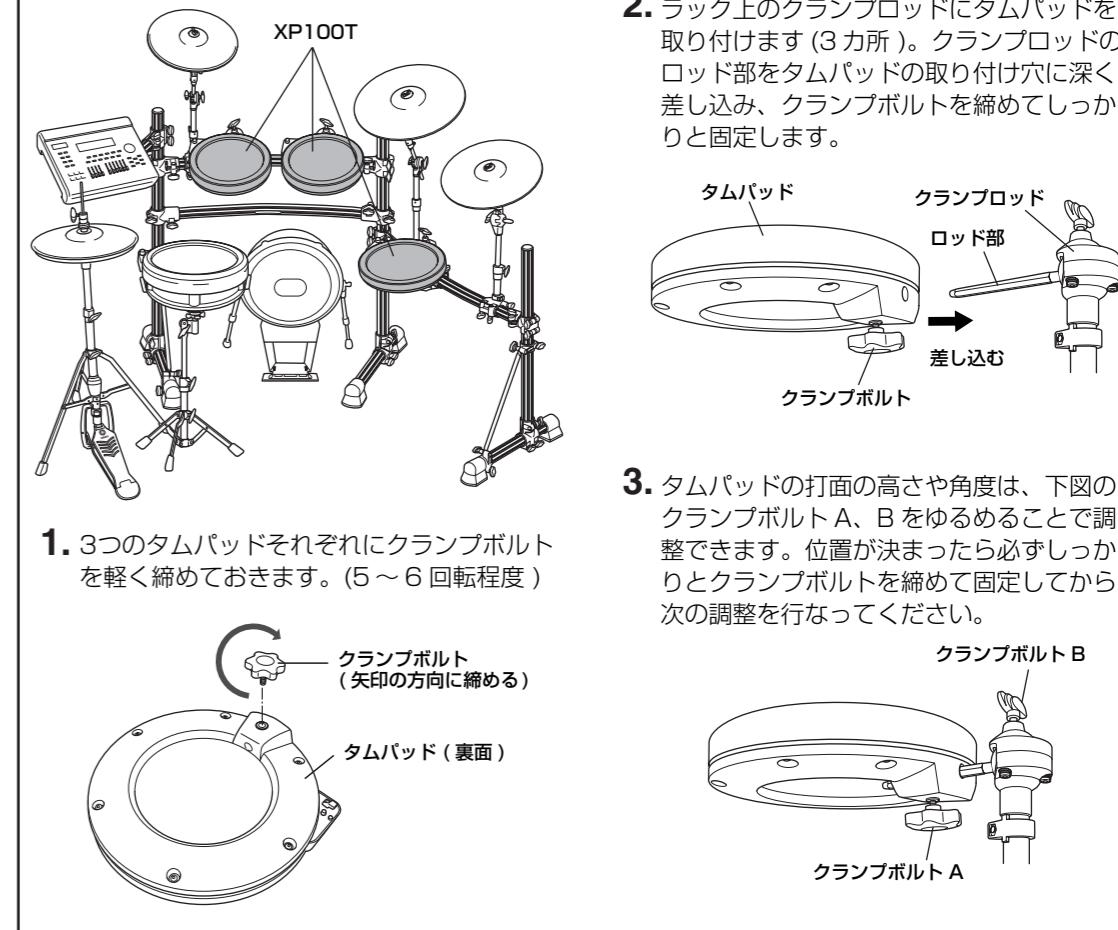
ラックにタムパッドなどを取り付け、キックパッドやハイハットを配置してください。

追加ホルダークランプ、シンバルホルダーの取り付け

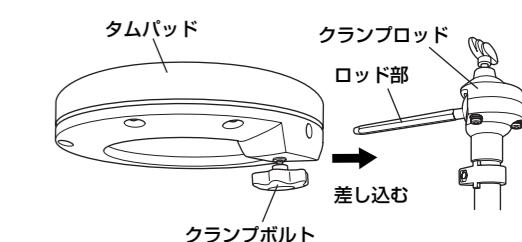
- ラック右端の支柱（下図①）を外し、追加ホルダークランプを下図の向きで取り付けたあと、支柱を再びラックに取り付けます。
- シンバルホルダー CH750 2本と CH755 1本を、ラックシステムの図の位置に取り付けます。



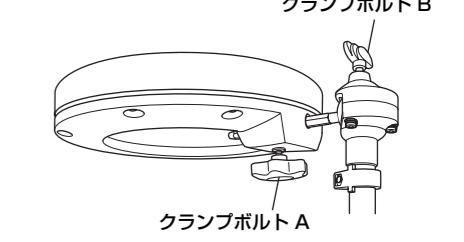
タムパッドの取り付け



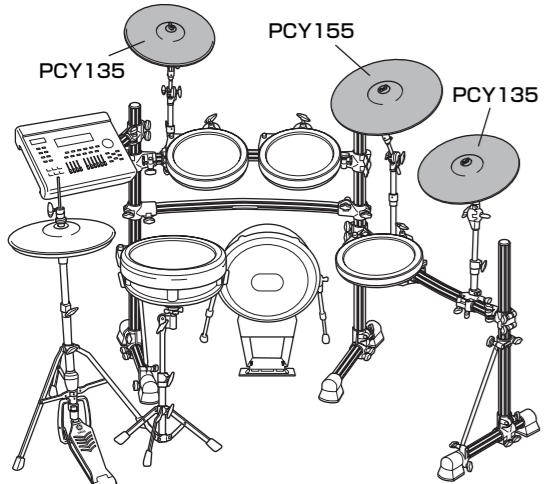
- タムパッドの打面の高さや角度は、下図のクランプボルト A, B をゆるめるなどで調整できます。位置が決まったら必ずしっかりとクランプボルトを締めて固定してください。



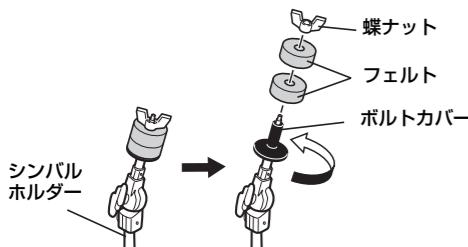
- タムパッドの打面の高さや角度は、下図のクランプボルト A, B をゆるめるなどで調整できます。位置が決まったら必ずしっかりとクランプボルトを締めて固定してください。



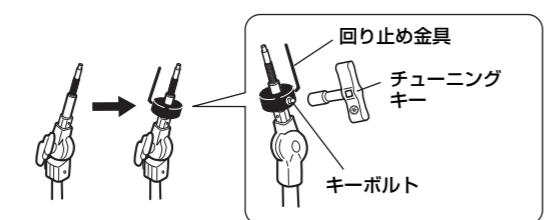
シンバルパッドの取り付け



1. シンバルホルダーの蝶ナットを外し、2つのフェルトを取ります。ボルトカバーも左に回して外します。

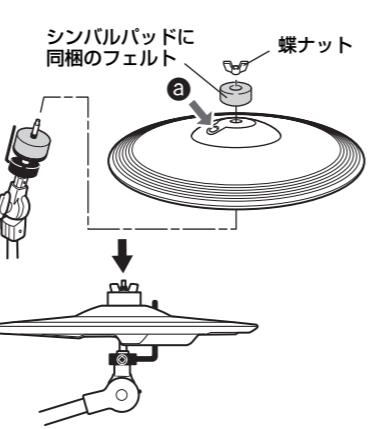


2. 回り止め金具側面のキーボルトをゆるめ、シンバルホルダーの下まで金具を差し込み、金具のL字部分が演奏者から見て向こう側になる位置で固定します。固定するときはチューニングキーを使ってキーボルトをしっかりと締めつけます。

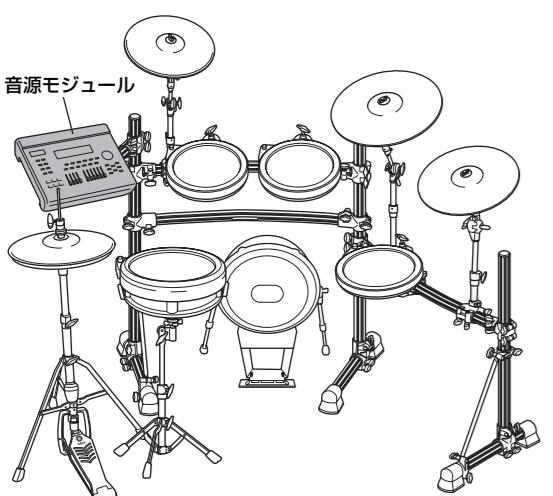


5. シンバルパッドのだ円形の穴(下図③)を回り止め金具のL字部分の先端に合わせて、シンバルホルダーに差し込みます。
※ シンバルパッド PCY135 はリアルハイハットパッド RHH135 と似ているので、必ず裏面の品番をお確かめください。

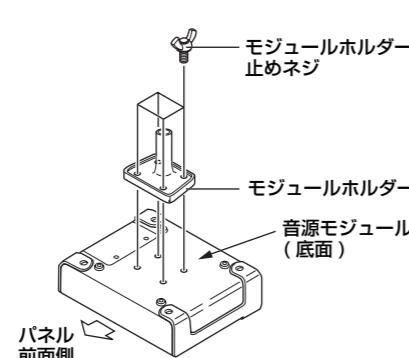
6. シンバルパッドに同梱の口径が大きいフェルトを差し込み、手順1で外した蝶ナットを締めて固定します。
蝶ナットは手応えがあるところまで回します。
蝶ナットが十分に締まった状態でも、シンバルパッドは打面を叩くと摇れる構造になっています。



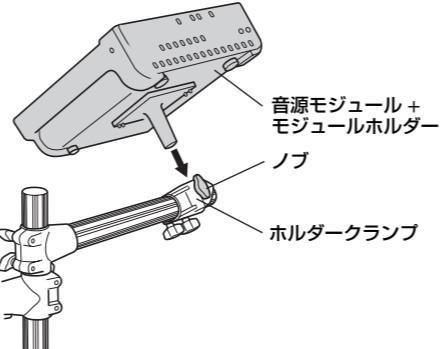
音源モジュールの取り付け



1. 音源モジュールに付属のモジュールホルダー止めネジを使って、音源モジュール底面にモジュールホルダーを取り付けます。



2. モジュールホルダーをホルダークランプに差し込み、ノブを締めて固定します。



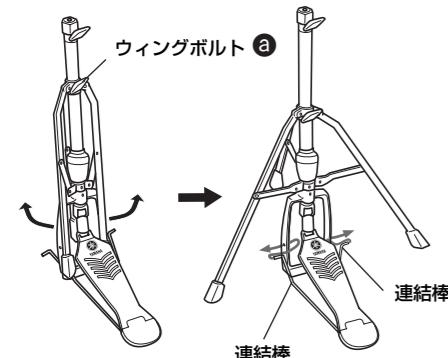
ハイハットスタンドの組み立て

1. ドラムマット(別売)などが無い場合は、床に傷をつけるのを防ぐため段ボールなどを敷きます。

2. ハイハットスタンドのウイングボルト(下図②)をゆるめます。

3. 下図のように三脚部を広げ、手順2でゆるめたウイングボルトを締めて固定します。

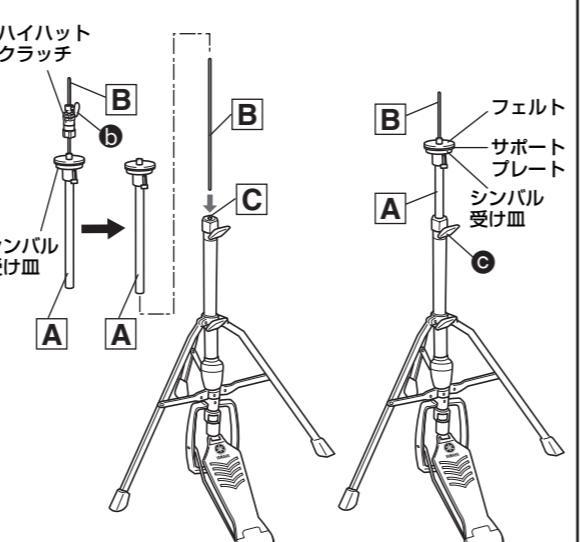
4. 下図のように連結棒をフレームの穴に差し込みます。



5. 右図をご覧ください。
ハイハットクラッチのウイングボルト(右図③)をゆるめてハイハットクラッチを外します。

- ※ このハイハットクラッチは本説明書の標準的な組み立て例では使用しません。RHH135 付属のハイハットクラッチを使います。

6. 上パイプ④からハイハットシャフト⑤を引き抜きます。



7. 手順6で引き抜いたハイハットシャフト⑤を下パイプ⑥のナットにねじ込みます。

8. 上パイプ④をハイハットシャフト⑤の上から差し込み、シンバル受け皿がハイハットシャフト⑤の中間となる位置でウイングボルト(右図③)を締めて固定します。

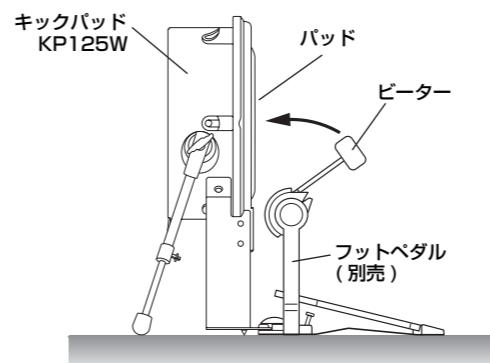
9. シンバル受け皿の上に載っているフェルトとサポートプレートは本説明書の標準的な組み立て例では使用しませんので、外しておきます。

10. リアルハイハットパッド RHH135 を取り付けます。

- ※ RHH135 取扱説明書の「セッティングのしかた」をご参照ください。

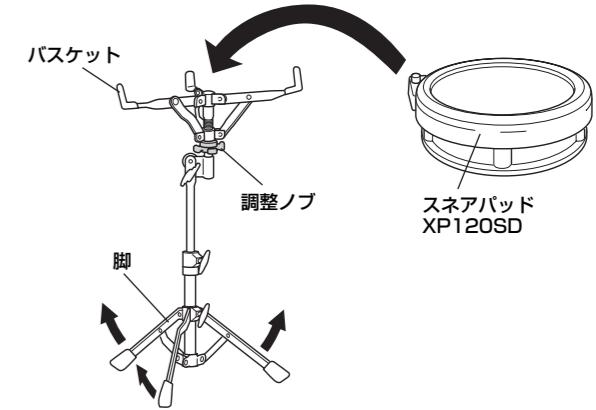
キックパッドの組み立て

1. ドラムマット(別売)などが無い場合は、床に傷をつけるのを防ぐため段ボールなどを敷きます。
2. フットペダル(別売)をキックパッド KP125W にセットし、フットペダルのビーターがパッドの中央に正しく当たるように調整します。
※ KP125W 取扱説明書の「KP125W の組み立て方」をご参照ください。



スネアスタンドとスネアパッドの組み立て

1. スネアスタンドの脚を開き床に置きます。
2. スネアスタンドのバスケット部を拡げスネアパッド XP120SD をのせたら、バスケットを調整し、スネアが動かないように調整ノブを締めて固定します。



4

本紙おもて面の『標準的な組立図』を参考に、ハイハットスタンド、キックパッド、およびスネアスタンドを配置しましょう。

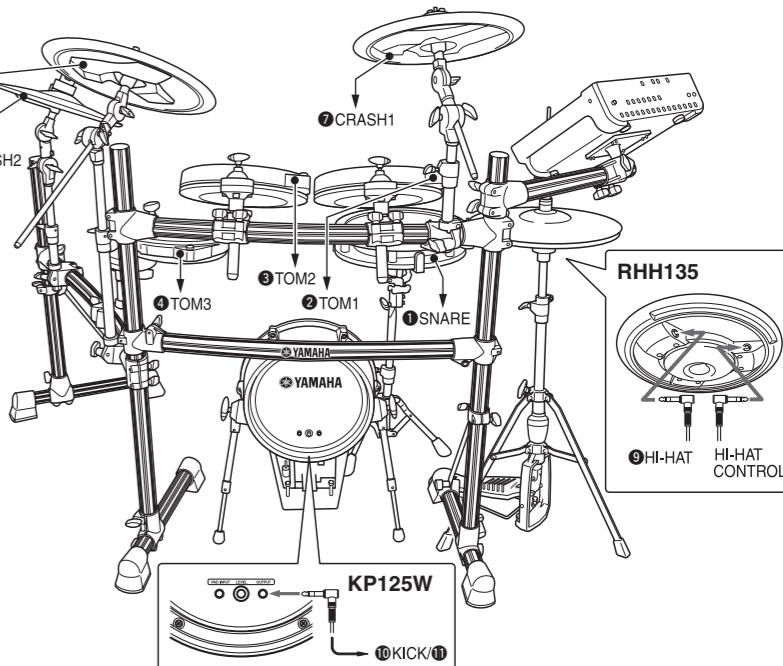
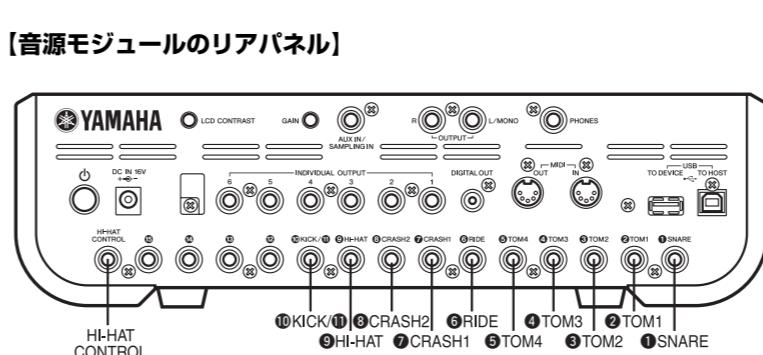
5

パッドと音源モジュールを接続しましょう。

パッドの出力を音源モジュールのパッド入力に接続し、配線します。

1. 音源モジュールのリアパネルのトリガー入力端子(①SNARE～⑩KICK/⑪、および HI-HAT CONTROL 端子)と各パッドとを、ステレオフォーンケーブルで接続します。
・ 音源モジュールのトリガー入力端子にはストレートプラグ側を差し込み、パッド側にL字プラグを差し込みます。
・ TOM4 のステレオフォーンケーブルは、本説明書の標準的な組み立て例では使用しません。

【パッドの接続端子の位置】

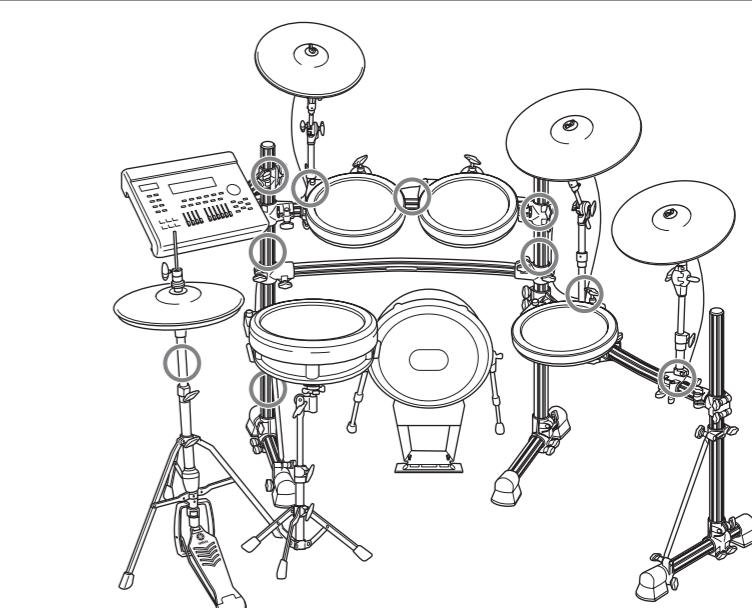
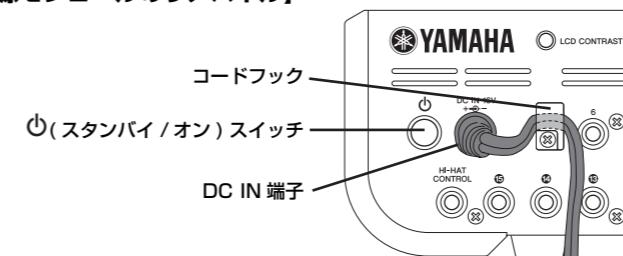


6

音源モジュールに電源アダプターを接続しましょう。

1. 音源モジュールの①(スタンバイ/オン)スイッチがスタンバイ(■)になっていることを確認し、電源アダプターのDC プラグをDC IN 端子に接続します。コードの抜け落ちを防ぐためにコードをコードフックに巻きつけて固定します。

【音源モジュールのリアパネル】



2. ケーブルバンドを使い、右図の○位置を参考にケーブルをラックに沿わせて固定します。必要に応じてスパイラルチューブもお使いください。
3. 電源アダプターのもう一端のプラグを家庭用(AC100V)コンセントに接続します。

これで組立ては完了です！ 音源モジュールの電源を入れて実際に音を出すなど、これ以降の手順につきましては、音源モジュールの取扱説明書をご覧ください。